

震災日記 Part 4

重井医学研究所附属病院小児科 小川 誠

【はじめに】

平成23年5月31日に第3回目の支援から帰ってきました。避難所を中心とした救護活動は収束に向かっており、医療は地元の医師会を中心とした活動に移っていきました。

今後は細く長い支援ということで、小児科の吉岡春菜先生を中心としたジャパンハート（JH）による子どもの心理支援を行うことになりました。そのため、私の出番は終わったと思っていたところ、6月末に吉岡先生から「東北地方で子どものキャンプをするので参加を依頼された。2回もするので両方は大変だ」との話がありました。

主催は心理の先生で、ミャンマーでのサイクロンや大震災でのこころのケアをジャパンハートと一緒にしているグループでした。第1回目は日程なども直前までわからず、吉岡先生や坂本さんは大変だったようです。今回は第2回目ということで比較的情報も得られ、余裕をもって参加できました。参加人数が前回の2倍近くであったため、違った苦労もありました。



【日記】

8月20日（土）

今回は医療班として私、子どもたちのチームリーダーとして言語聴覚士の清家さんが参加することとなった。小児療育センターでは子どもの「こころのケア」を一番大切にしていることから、今回のプログラムは自分たちの日常業務に役立つと思った。

通常勤務にできるだけ影響を与えないように、当日7:30発の飛行機で伊丹空港から福島空港を経て、レンタカーで裏磐梯の小野川湖レイクショア野外活動センターにむかった。昼前に現地に到着してスタッフと合流。医療班は養護教諭2名、薬剤師3名、薬学生1名の計7名。問題のある児童の割り出しと、グループ分けを行った。

午後からのオープニングから雨足が強くなり、気温も下がってきた。進行役の「おっ

ちゃん（北原さん）」は、ギター1本を用いて約30秒で子どもたちの心を掴んでしまった。解散の時にはみんなからサインをねだられた。すごい一言。

夜は、心理班と一緒に地元の東急ホテル「グランデコ」職員宿舎に泊めてもらった。



医療班の基地作成



医療班メンバー



伝説のおっちゃん①



おっちゃんの本職は専門学校の先生

8月21日（日）

あいにくの雨。心理スタッフとリゾートホテルのグランデコでリッチに朝食。その後の検討会には用がないので、キャンプ地に送ってもらう。ホテルを出たところには野生の猿が数匹いた。最近熊も出たらしい。

4つのグループが、カヌー、沢遊び、木登り・デッキ作り、オブジェ作りに分かれて、午前と午後に1つずつ行事に参加。キャンプ場は携帯電話が通じないため、医療スタッフは分担して帯同。私は午前と午後共に湖でのカヌーの見学をした。



雨の中でカヌー遊び



清家さんも出発

夜は班毎に与えられた食材を用いての「ビストロパーティー」。清家さんのグループに参加させてもらう。大蛸とスペアリブがメインの食材のため、「たこ焼き風お好み焼き」を一緒につくった。



食材(大蛸)



自分たちで調理



スペアリフと大量のお好み焼き(ミルフィーユ状態)



完食「ごちそうさま」

8月22日(月)

天気予報では強雨のはずが、曇りで夕方から晴れてきた。午前中は良く滑る山道を30分以上歩いて、木登りに参加。午後は沢遊びを見学。終了時に露天風呂で暖まっている姿をみて大笑い。



雨で濡れた山道を進む



本格的な木登り



縄を使ったフランク

昼はホテルのシェフによるカレーバイキング。みんな腹一杯に。



ホテルのシェフさんによる出張料理



沢遊び



小さな露天風呂に一杯の人

医療班の仕事は、ほとんどが虫さされ（ブヨ／ブト），擦り傷への対応だったが，自作のずべり台から転落して足首を腫らした小6の子が来た。かなり腫れているので，会津若松市の救急病院に紹介した。捻挫との診断で戻り，本人の希望でキャンプを続けることになった。



**ジーンズの上から刺された跡
未だに浮腫が残る(筆者)**



腫れた足首

キャンプファイヤーは天気が悪かったため，屋内に変更となった。

深夜に闇夜の道を500m位歩いて駐車場へ行った。懐中電灯を消すと全く何も見えない。後で熊が出るとの話を思い出しぞっとした。

8月23日（火）

最終日。朝食後一斉掃除。オブジェ作りの仕上げをして，最終的に皆の作品で大きな木を作成。記念写真をとった。

最後に，何人かが代表で感想を述べた。中に一人「***をいじめて楽しかった。蛇を殺してうれしかった」。これが，広汎性発達障害なんだと認識した。司会の心理スタッフが上手に「カヌーとか木登りとか楽しかったことはあった？」と聞くと，「カヌーに乗ったのが楽しかった」と答えた。係わり方の大切さが分かった。

子どもたちを送り出し，午後3時をまわったところでキャンプ場を後にした。明日の外来があるため，どうしても今日中に帰岡しなければならなかった。途中の郡山駅に清家さんと養護教諭，キッチンスタッフを下ろした。キッチンスタッフはパリからボランティアに来ているとのこと。



印象に残るオブジェ



最後の記念撮影

【おわりに】

よく判らないままに参加したキャンプでした。途中で実行委員長の小林正幸先生（東京学芸大学教授）に色々話を伺いました。福島を選んだのは、このキャンプ場があったから（規制があまりない）。メンバーには危機管理の専門がいてプログラムの評価がなされている、外で充分遊べない福島の子どもたちを対象にした、県内西部の会津地方が安全であることのアピール（第1回の時に放射線量を測定し、都内23区とほとんど変わらないことを確認）した等々。計画立案から実施までにはかなりの困難があったようです。

今まで4回の支援を通じて学んだことは、「考えること」そして時間をおかずに「実行すること」が大事だということです。ジャパンハートの吉岡先生、今回の小林先生は共にものすごいパワーで突き進んでいます。自分が正しいと信じてすすむ姿には、他人を感動させる力があります。自然に協力者が集まってきます。自分にはそんな力はありませんが、学んだことを日常診療に生かすと共に、小児科医として細く長くかかわりたいと思います。

世界一心が温まる
キャンプを福島県
でやりたいと思う

みどりの東北 元気プログラム

みどりの東北 元気プログラムとは？

東日本大震災で被災された方々に、深く心からお見舞い申し上げます。「子どもたちの元気を取り戻したい」東京学芸大学 小林 正幸教授の総合監修のもと、野外活動家と臨床心理士たちがタッグを組んで、「みどりの東北元気プログラム実行委員会」を立ち上げました。

名付けて「みどりの東北元気キャンプ」

これは「子どもたちに元気を」という思いのもと、多くの方々の寄付と賛同により実現。目的は震災後の「こころのケア」。こころを元気にするために、体を動かすこと、みんな で食事をつくること、火を囲んで一緒に過ごすことも大切だと考えています。緑と山と人 の力を総結集して、子どもたち

来年もつづけて実施するとのこと 医師、看護師、薬剤師、調理師・・・大募集です



付録 福島空港はウルトラマンの世界が広がっています